

「アドラ・マジックシティ」初来航

2024-1-4 池田良穂

中国国産の大型クルーズ客船「アドラ・マジックシティ」が、1月4日に長崎に、翌5日に福岡に初入港しました。同船は14万総トン級で、中国の造船所で建造された初めての巨大クルーズ客船で、続いて9隻の建造が予定されているとか。運航するのは米カーニバルとの共同出資会社です。

建造には、カーニバルグループのクルーズ客船を連続建造している伊フィンカンテリイが技術供与をしており、カーニバルグループの「コスタ・ベネチア」とほぼ同型と思える外観です。いわば「デザイン・バイ・イタリー」、「メイド・イン・チャイナ」といったところでしょうか。今後、中国の造船業が本格的に大型クルーズ客船建造の技術力を高めて、欧州の造船業の一大ライバルへと成長することを予感させる一隻の登場です。

同船は12月に商業クルーズ就航前のプレクルーズで鹿児島に来航していますが、1月1日上海発で処女航海に出て、1月4日には長崎港に初入港という情報を得て、新年早々ですが会いにでかけることにしました。1月3日に大阪から長崎に移動して1泊し、朝9時頃に女神大橋上から出迎え、その後出島岸壁の近くに移動して、停泊した同船をゆっくりと拝見しました。女神大橋の上では藤木会員をはじめとして10数人がカメラを構えていました。また船は松ヶ枝のクルーズターミナルに着岸しましたが、隣接する出島の広大な駐車場にはたくさんの観光バスが待機して、中国人通訳の大集団が乗客の下船を待っていました。

今後、しばらくは上海発着の短い韓国・日本クルーズを繰り返し行う予定で、長崎や福岡に毎週のように姿を現わす予定とか。中国のクルーズマーケットが急速に拡大して、北米マーケットに次ぐ巨大マーケットへと爆発的に成長する記念すべき年になるように思います。



8時半過ぎに、神の島地区の「岬の聖母像」のある神ノ島教会(手前)と伊王島灯台との間の水道に「アドラ・マジックシティ」が姿を現わしました。前日は夕方まで雨でしたが、4日の朝は青空が広がっていました。



タグボート「光鶴丸」が先導して女神大橋へと近づいてきました。右の白い旅客船は、伊王島鷹島航路の野母商船「鷹巢」です。





松ヶ枝岸壁に着岸した「アドラ・マジックシティ」です。



2019年に佐世保港で撮影した「コスタ・ベネチア」(下)と並べてみました。